http://www.kakehashi.or.jp/

チェルノブイリへのかけはし通信

平成23年10月8日 発行

NPO法人チェルノブイリへのかけはし
〒064-0809
札幌市中央区南9条西6丁目421-6
八条マンション104号
TEL/FAX(011)511-3680

関東圏でもチェルノブイリのようなところが発見されています
今、日本の子どもたちを守ってください
放射能「汚染物質」を食べさせられています
北海道の給食にも！



チェルノブイリ20周年の劇団「曼珠沙華」慰問公演を見る子供達。

19年間、チェルノブイリの子供達のためにご支援頂きましてありがとうございます。

福島第一原子力発電所事故を受けて、チェルノブイリ被災児童の受け入れを休止いたしました。理由は、事故が収束していないことと、食品汚染を防ぐことが難しいからです。

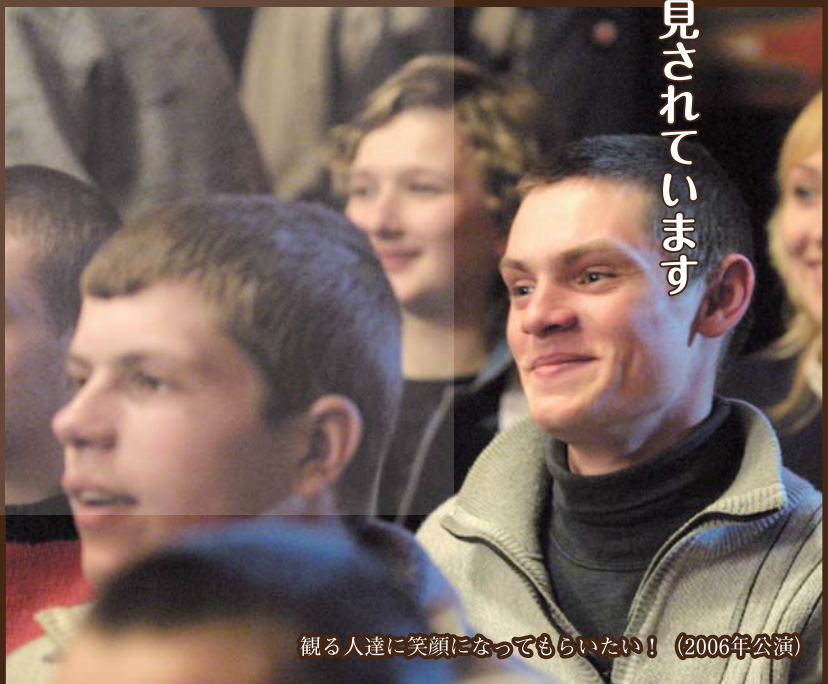
そして、今年、私たちは緊急的にイタリアに子供達37名（中学生を含む）を保養に送り出しました。フランスからも招待を受けて準備中です。

子供が「放射能汚染物質を食べさせることは人災」であり、すべて大人たちの責任です。また、目を覆いたくなるような高い数値のところに住んでいる子供達がいます。

被ばくの基準がどんどん緩められています。どうか、大人たちの総力をあげて、チェルノブイリの子供達のように重症化させないために日本の子供達を守ってあげてください。早急に！

チェルノブイリ25周年の今年、国際交流基金の一部助成が決定し4月26日のチェルノブイリデーに合わせて訪問する予定でした。事故のため延期され10月前半に出発します。

これから、2つの被ばく国の心の絆は、大きな意味を持ってくると思います。



観る人達に笑顔になってもらいたい！（2006年公演）

October 2011
緊急号外！
KAKEHASHI

その1 福島の子供たちの避難・疎開の実現を！

関東の子供たちにも年に3カ月以上の保養が必要です。
放射能カウンターは嘘をつきません！

チェルノブイリの廃村

チェルノブイリの廃村の数値（事故から６年後）は、0.412マイクロシーベルト/毎時。

ここの村は小学校の子どもたちがいっせいに黒板の字がかすんで見えなくなり、調査団がやってきて閉村になったのです。放射能がなんなのかわからず、汚染された畑でとれたものをほぼ100%自給自足で食べていました。



廃村の写真です



チェルノブイリから180kmの廃村で撮影。
0.412マイクロシーベルト。1994年。



飯舘村で撮影　22.49マイクロシーベルト。本年6月撮影。左端上のバーを上げてひと桁、上げなければいけなかった。

通常１マイクロシーベルトを超えるようなところは立入禁止看板がたっていた。カウンターの警報音が鳴り響き、私たちは10秒だけはかって逃げたものです。そうした高濃度の汚染はたいていが森で、その奥に行くと数値が上がりそうで入れませんでした。
そのようなところが、福島県80ｋｍ圏内のほぼ大半で、そこに子供達が避難をさせられないで住んでいます。



福島県郡山市 3月27日

郡山市の数値：3月27日　8.788マイクロシーベルト／時。

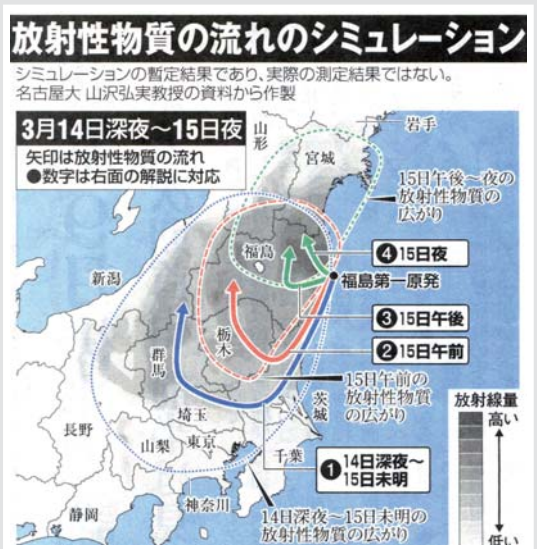


人々はなんの警告も受けず、父子が自転車の二人乗りをするなど休日を楽しんでいた。
チェルノブイリの立入禁止の森よりも高い放射能値の中で。
なんの警告も受けずに。屋内退避すべき数字の中、相当数の国民が無駄な被ばくをさせられ、子供達が危険にさらされている。憤り以外の何の感情もわいてこない。

何もしない、できない、保証もない

3月15日と22日の図をみてください。東大のアイソトープ研究所の児玉先生は3月15日の放射能の死の灰は、「広島原爆20発分」に相当し、大変なことが起こったと文科省に通報したそうです。けれど、何も、対応がなされませんでした。

朝日新聞 H23年8月11日

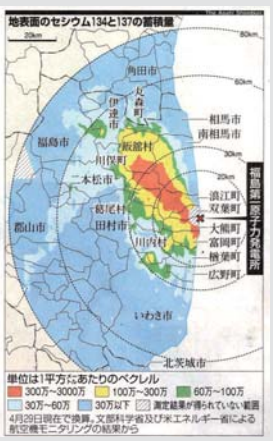




これだけの放射能雲が通過しているときは、屋内退避が鉄則です。日本の場合避難させるバスの用意さえできないからです。そしてヨード剤の配布も必要でした。甲状腺の内部被ばくが認められる子が45%いると政府は発表していますが、まずそのような子どもたちを疎開させなくてはなりません。

チェルノブイリのとき、30km圏の人々14万人を1週間で避難させるために1,000台のバスが動員されたといいます。そして、妊婦さんや赤ちゃん、子供たちを優先的に避難させました。残った人が家畜を移動させて出てきたといいます。

チェルノブイリの体験から、体重当たり20ベクレル体内に放射能が蓄積されていれば子供たちの体調が悪化することが分かっています。子供たちは満足な健康診断を受けることもできず、数値は開示されずただ、「大丈夫」とだけ言われています。これはすでに虐待です。子供たちはすべての状況を飲み込んでおり（家庭環境も含めて）、大人たちのごまかしの前でどれほど自分の未来をおびえているかわかりません。早急に内部被ばくの調査をして、対応すべきです。保養し、汚染のないものを食べさせることで放射能を排出させていかなくてはなりません。



朝日新聞 H23年5月11日

アメリカの原子力防災計画の避難区域は80km、日本は10km。
原発から160km圏内はそうでない地域に比べて、乳がんの発症率は2倍（アメリカのデータ）。
日本は北海道の一部を除いてすべて160km圏に入ってしまう。
福島県80km圏の子供たちは、大変高い数値のところに住んでいます。
アメリカは自国民にすぐにこの80km圏から脱出するように指示をしました。この半年以上、事故が収束することはなく、台風のたびに数値が上昇しています。
今からでも、日本も子供たちをはじめ、大人も避難させる必要があります。



ゴメリ州の病院

ありえないことだか、「2人一度に心臓の手術をしなければ間に合わないこともある」という。
事故当時10歳未満だった子供たちが、30代になり次々と心筋梗塞で運び込まれてくる。
セシウムが心臓にたまると、血管をかたくしたり、子供たちの心臓には小さな穴があいていて徴兵を免れたという里子もいた。

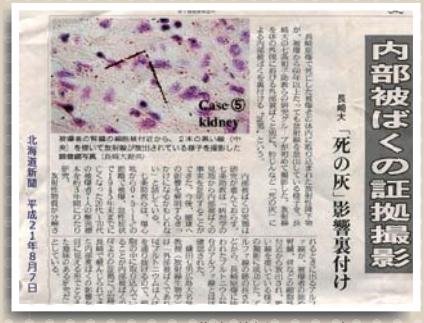
小児がんセンター



ドイツが建物ごと寄付をしました。子供たちはさまざまな癌に苦しみますが、医師たちは「放射能と因果関係はない」と言い続けます。

内部被ばくの記事

原発投下で犠牲になった方の腎臓の組織で
今もプルトニウムが放射線を出し続ける


内部被ばくの証拠撮影

長崎大「死の灰」影響裏付け

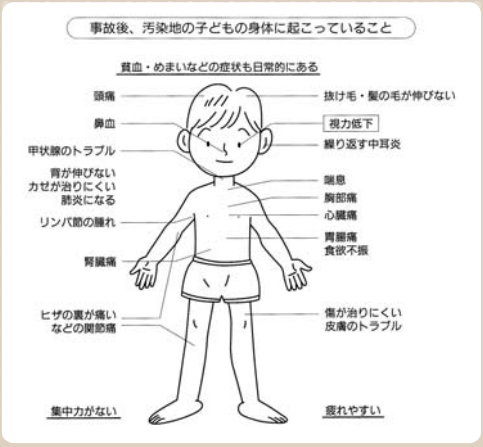
Case⑤ kidney

北海道新聞 平成21年8月7日

北海道新聞 H21年8月7日

子供たちの身体図

「チェルノブイリ・エイズ」ともいわれました。放射能が体内に入ることによる内部被ばくのため、子供たちの抵抗力が落ちて、老人のようになります。病気にかかりやすく治りにくい。「病気の花束」とも呼ばれ、抵抗力が下がればだれが発病してもおかしくないといわれていました。汚染地域にすむ子供たちはほとんどがこのような症状を抱えており、この段階では血液検査をしても異常がでないと言われています。
頭痛や腹痛など、放射能が原因のため、薬を飲んでも痛みが止まることはありません。
保養に出ると、①体内の放射能が排出される②遺伝子の修復のスピードが速くなる、のでこれらの慢性被ばく症の症状がとまると言われて、世界中で保養運動が取り組まれてきました。



1996年、ミンスクの病院



左の女の子は7歳なのに5歳で成長がストップ。真ん中の女の子は、途中で男の子の性徴があらわれてきた。(1996年、ミンスクの病院で。甲状腺は成長ホルモンをつかさどるところ)

骨の問題が増えてくる

ナージャ(左・一歳年下)は、チェルノブイリ2世。成長は右の子と比べてもおぼつかないことがよくわかる。頭蓋骨が成長しないかもしれないと言われていた。人間にとって恐ろしいことだが、ストロンチウムは骨のトラブルを引き起こすと言われている。
セシウムはカリウムと、ストロンチウムはカルシウムと勘違いされて栄養として吸収される。



■ その2 子供はゼロ被ばく！

放射能入りのものを食べさせないで！
汚染給食が広がっています　応援野菜は自滅路線

外部被ばく（レントゲン：焚き火でやけど）と内部被ばく（汚染されたほうれん草を食べること：焼けたたきぎを飲み込んだ）は全然被害が違うので、比べることができない性質のものです。このような違いをわかっていないのか、わかって子供だましのようにまぜこぜで説明していたのか。

人工放射能と自然放射能も違います。

人工放射線を身体の中に入れる恐怖

1番から21番まで、来日した子供たちの体内の放射線蓄積量（体重あたり）です。

これが 20～50ベクレルで血圧以上はじめさまざまな異常が起こってくると言われています。100ベクレルを超えている子供も、親に食事指導をすることで、体内汚染を減らしている活動もありました。日本では食品基準が事故後に緩められてしまい、ほとんどの汚染物質が日本中を流通しています。

尿にセシウムが含まれるということは、微量でありながら腎臓など排尿器官が尿をためている間中ずっと、微量な人工放射線の照射を受けており、チェルノブイリではのちに腎臓癌などが数倍に増えたと言われています。たとえ少量であってもその家系の弱いところが悪化して出てくることがあります。

子供は細胞分裂を盛んに行っており、放射線による遺伝子損傷のダメージが大人の数倍以上あると言われています。

０.1マイクロシーベルト /時を切るような放射線量のところでも鼻血を出しており、保養に来て１週間ぐらいで、とまります。

応援野菜の恐怖

福島県と関東圏の放射能の影響を直に見ることができない地域には、汚染された地域の野菜が出回っています。つまり土壌の汚染のあった地域のほうが、気をつけているので地元のものより西の野菜などを購入しています。事故がおわったとして、スーパーで福島産の応援野菜を買うことは自らの家族に放射能を毎日、毎日投入することになり、大変危険な行為です。農家の方が汚染された畑を耕し続けることはいいことでしょうか？風評被害というのは汚染されていないのに汚染されていると騒がれること。基準が高すぎで出荷停止になっていないだけです。

汚染されたものを食べていると、口内炎や胃腸の障害を起こしやすくなります。

北海道の子供たちがいちばん危険な野菜を食べた？！

事故の死の灰が３月４月５月と風にのって福島・関東圏を汚染しました。誰も買わない野菜は値崩れし、給食の業者が「応援」として自動的に、汚染に対して意識の低い地域に汚染野菜が流れてきていました。今年の冬、北海道の子供たちに、たとえ微量であっても放射能の入った給食を食べさせないでください。ゼロ被ばくをお願いします。

チェルノブイリの子の涙、
日本の子にも、
もう見たくないのです。

放射性セシウム 134 と 137（Bq、Kg）

	事故後の現在の国の基準	現在のウクライナ	ドイツ放射線防護協会警告（幼児・若者）	小金井市市民検査室2011.3事故前（2010年）調査結果
乳幼児用・飲料食品	100	40	4	不検出
牛乳・乳製品	200	100	4	不検出
飲料水	200	2	4	・不検出
野菜・コメなど	500	40	4	不検出
肉・魚・そのほか	500	150~200	4	

食品基準表　　基準がゆるくて出荷停止にならなければ、農・漁業関係者への保証もしなくてすみます。
そして農業者もまた被ばくします。基準を厳しくすれば保証もあり、消費者も汚染物質を食べなくてすみます。

その3 汚染されていない土地を死守する!

がれきの移動は今はしない、燃やさない、汚染された堆肥や汚泥を買わない

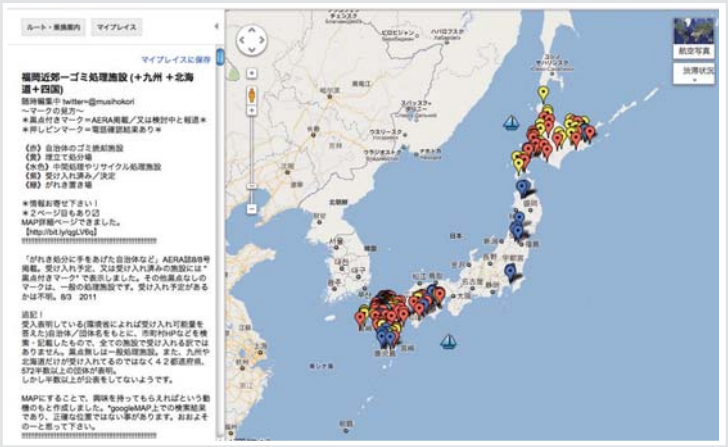
がれきの前にまず子供！

沖縄では栃木産の汚染された腐葉土がホームセンターで販売されていて、大問題になりました。すでに知らずに家庭菜園に使ってしまった人もいるようです。また、下水からでる汚染された汚泥の焼却灰も堆肥などに販売されることが可能になりました。農業関係者・家庭菜園をされている方は肥料の購入時に、せっかく汚染されていない土を汚すことのないように細心の注意を払ってください。関係ないと思っていると、全部自分に返ってきます。

また汚染されたものを燃やすと、大気の中をまた循環し始めます。焼却前提で汚染されたがれきを受け入れたりしない、埋め立てをすると地下水汚染の可能性があります。

汚染されていない大地はすべて、子供たちのためのものです。日本は国土が狭いので汚染のない土地には子供たちをよんであげてください。

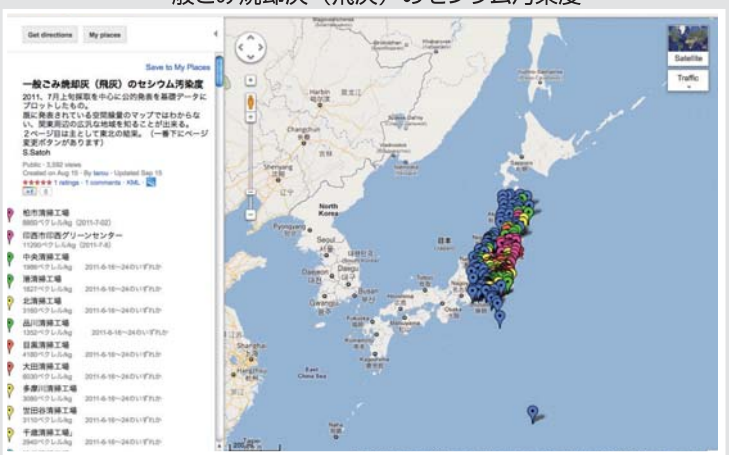
がれき受け入れ予定地域



がれき処理について手をあげている自治体（8/8アエラを基に作成）

http://maps.google.co.jp/maps/ms?msa=0&msid=210462754553401757090.0004a7dc3d09f0957c18e

一般ごみ焼却灰（飛灰）のセシウム汚染度



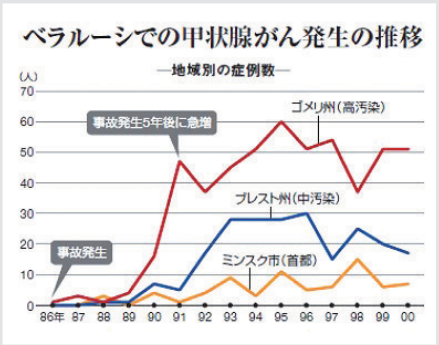
空間線量からだけではわからない焼却灰のセシウム汚染

http://maps.google.com/maps/ms?msa=0&msid=213026294094187381278.0004aa9376bc5cc7373db

その4 子供たちに対する定期健康診断の実施を
とるにたらない放射能の量であっても検出された地域の子はすべて

現在、福島県や関東圏の子供たちの被ばく対策は、自治体まかせになっています。福島県では被ばく量などのデータを本人に非開示にしています。また、不可解なことですが、年間100ミリシーベルトまで被ばくしても癌が増えないとする山下俊一医師の言説に日本の医学界が従うかのように沈黙を守っています（世界基準は１ミリシーベルト：子供はもっと低いほうがいいのです）。チェルノブイリの時も、IAEA（国際原子力機関）から派遣された広島の医師が現地に乗り込んで、放射能のせいで小児甲状腺がんは増えていないと「大誤診」して、対策を手遅れにさせた大失敗があります。

２時間、鼻血が止まらなくて救急車で運ばれた子も、血液検査を拒否された子もあります（関東の大学病院で）。



事故後5年のときに、小児甲状腺がんが増えているのは「放射能のせいではなく、風土病」とIAEAが、誤診。10年後にようやく放射能のせいと認めた。それまで何もしなかった。

出所：ベラルーシのE..Demidchik 教授
（元国立甲状腺がんセンター院長）NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

6月、あまりにホームページに書き込みが多いので
医療相談会をしました。
かけはしが19年間お世話になった服部先生とともに



医療相談会

鼻血 3月15日に出している人が多かった。

日本の医師たちは「こんな低線量で鼻血が出るわけがない」と言います。チェルノブイリの子供たちは、数字的には関東圏の汚染に近いところに住んでいますが、みな鼻血を出し、保養に来たら１週間で止まります。関東の子も夏休みに関東を離れたら鼻血が止まったと言います。そしてもしも、3月に高線量の被ばくをしてしまっているとしたら？

浮遊している放射能が鼻粘膜に付着したとしたら？

すでに甲状腺に異常がみつかっている子供たちもいます。

また長引く下痢も要注意です。汚染されたものを食べていれば胃腸の粘膜が被ばくして下痢になります。そのような場合は抗生物質を飲んでもとめることができません。原爆ぶらぶら病の研究をされた肥田舜太郎先生は、「鼻血と下痢がそろったら、被ばくを疑うべきである」と警告されています。ほかにも手の皮がむけたなどの症状もたくさんありました。

何もしないのは国家の怠慢です。

健康相談症状マップ



鼻血を出している地域：かけはし主催の医療相談会にて
http://www.ironnakatachi.com/kenkousoudan/?page_id=35

JAPAN代表 佐藤 啓子
イタリアの１カ月付き添いの報告です。

かけはしJAPAN始動しました！

事故があってすぐにイタリアから保養の招待がきました。
あまりの数値の高さに子供たちを保養に出さなければ、と動き出したものの、
多くの人が、テレビや政府の「安全説」を信じて、被ばくを続けていました。
日本の子供たちの涙を見たくない！
子供たちを保養にだしたり、国内の短期保養など、募金活動が始まりました。

イタリアは太陽も人間も、Grande!

Grande（グランデ）：大きい

こんな日が訪れると誰が想像していたでしょうか。

原発をかかえている日本にあって、決してあり得ないということではないながらも、よもや日本の子どもたちを海外に保養に出す立場になるとは…不思議な感覚で３５名の子どもたちと成田空港を飛び立ちました。イタリア保養を決定してから、日中は保護者、夜間はイタリア、と連絡を取り合いながら準備してきたので、やっとたどり着いたという安堵感が大きく、先の不安などは感じている暇などありませんでした。到着後は関係団体の大歓迎でごった返す空港ではマスコミからの取材を受け、子どもたちはそれぞれのステイ先に移動しました。「いよいよ」と、その後ろ姿を見送りながら、子どもたちの保養が始まったことを実感しました。しかし、早々に泣いている子どもや里親の変更という情報が入ってきて、これが海外保養の序盤に起こるべくして起きたという感じであわてることはありませんでした。

イタリアは朝から37度。昼には40度。夜になっても寝苦しい気温は変わらず、早寝早起きなどという概念は吹っ飛び、遅寝遅起きというのがイタリアの夏の過ごし方です。家庭訪問で聞かされる子どもたちの声には、戸惑いながらも順応し、暑さとイタリア人のおおらかな感性を楽しんでいる様子でした。もちろん、生活習慣の違いやことばの壁に大きなストレスがあったようですが、子どもたちはそれを乗り越えて身体だけではなく心も大きくなってきていました。

ある家庭でのこと。「この子は家が大好きで、お客様には我が家にようこそとご挨拶するの。そして、どこにも行きたがらないのよ」決して、家から出たがらない子どもを「わがままで、困っちゃう」とは言いません。目を細めて語る様子に、温かさと広い心を感じることが出来ました。「是非、来年も～」といくつもの家庭で「約束だよ」と言われました。「この子だけじゃなく、日本にいる家族も呼びたい」というリクエストもいただきました。本当に日本の今を案じてくれているのです。



子どもたちへの感想は、異口同音「しつけが行き届いている」「かしこい」と言われました。やんちゃな子どももいましたので、その子の家庭訪問はドキドキしながら行くのですが、それでも「優しい落ち着いた子ども」とべた褒めです。そんな声を聞くたびに、子どもたちが立派な親善大使を務めてきたことをとても褒めてやりたいと思います。

「ぼくの喉に何も入っていなかったの」

これは、イタリアの病院で受けた甲状腺の検査結果を里親さんと話していた時に、離れていたところにいた子どもが飛んできて、つぶやいた言葉です。思わず、大人たちは顔を見合わせてしまいました。決して、心配事は大人だけのことではないのです。



子どもたちは、自分たちのおかれている状況を感じとっています。未来を案じています。

ある里親さんが「日本人は、見識も高く、素晴らしいテクノロジーも持っているのに、どうして事故後の対応がうまくいかないのだ？」と首をかしげて訊いてきました。これには「私もわからない。多くの日本人が、政府のやることが理解できないでいる」と、本気で答えました。しかし、原発事故についての質問は、この里親さんぐらいでした。記者会見でもマスコミからの質問は一切ありません。質問攻めも予想していたので、それがどうしてなのかはわかりません。

帰国してから、保護者のみなさまや子どもからメールや手紙をいただきました。そのなかの小６の男の子から「日本に帰って、伝統などが違うと思いました。また、心も成長し、体調も良くなり体力がつき、自分が変われたことがとてもうれしいです。･･･放射能に負けずに頑張りたいと思います。」という一文がありました。そうなのです。文化や習慣の異なる中での保養は、ことばの壁を越えてわかり合おうとするエネルギーが身体だけではなく心に大きな栄養を与えるのです。

「放射能にまけない。」という覚悟をつくった子どもたちの道を広げ、守っていかなければならないと思っています。

福島からの手紙

こんにちは。イタリア保養で、娘が大変お世話になりました。

娘が日本に帰って来てから約１ヶ月・・・。あっという間に過ぎてしまいました。特に大きく体調を崩す事もなく学校へ通っております。福島県郡山市は、子供たちの通学路がまだ除染がされておらず９～10マイクロシーベルトもある道路（道路のヘリの部分が高い）を毎日子供たちがまたいで歩いています。私たち親は毎朝仕事へ出る前に１時間程、草や土をとり続けています。１回は育成会の親が20名程集まり、水で洗い流す作業も行いました。（ものすごく大変な作業でした）この郡山市に残り住みたい一心と子供たちを少しでも安全な土地で住まわせたい気持ちで必死に取り組んできました。しかし、6ヶ月もたち、もう、体も心もくたくたです。かけはしの、ブログで、除染作業の警告も見ましたが・・・。福島は、山もあって、海もあって、川もあって、食べ物も果物、野菜、米・・・どれをとっても最高のところなのです。この福島を誰がきれいにしてくれるのでしょう？誰もやってくれないのなら自分たちでやるしかない！と思うしかなかったのです。でも、だんだんと疲れもとれなくなり・・・歯ぐきが化膿し、腰がいたくなり、胃の調子もいまいち・・・生理は、この３～４ヶ月狂いっぱなし・・・先日の台風では、家が雨もり・・・××。家を直すべきなのか？それとも、別は土地に移り住んだ方がいいのか？毎日悩み・・・動悸が続くようになってしまいました。休み休みやっているつもりですが、心が休まらないのです。なんで、こんな事になってしまったんだろう・・・と考えては涙しています。子供も泣いています。お友達が何人も引っ越ししていきました。近所だけでも５軒も引っ越ししていきました。お年寄りも泣いています。「今年の夏は孫に会えなかった」と。放射能が心配だから福島のおばあちゃんちには行かないヨ・・・と。いつも、近所の農家の人から野菜を頂くのですが・・・最近では会話にも困っています。80代のおばあちゃんに「子供たちに福島のもの食わせらんのか？」と聞かれて、私はどう答えたらいいのかわかりませんでした。もも屋さんが注文を受けて送った家から電話がきて「なんで福島の桃なんて送ったのか？福島の桃なんて食べる人いないよ」と言われたそうです。私もそう思います。福島のものは食べてはいけないと思います。私には、小学校の頃のとても気持ちの良かったと思う思い出があります。りんご畑で沢山のりんごの木に囲まれて、その下にあるレンゲ草がた～っくさん生い茂っている所に寝転んで、草のにおいをかぎながら青い空を見て、ほほには優しい風邪が吹く、その場所でうたた寝した記憶。そんな素敵な自然との思い出を今の福島の子供たちは作る事ができないのです。草をさわる事も、木にふれる事、土をいじったり、虫と遊んだり、風を楽しむ事も・・・今、私はとても悩んでいます。この大好きな福島を除染していき続けるのか？それとも、子供たちが自然の中でのびのびと生きる場所へ移り住むべきなのか？誰も判断する事はできないでしょう・・・。私たち夫婦が考え判断するしかないのです。毎日と夫と悩んでいます。仕事もある。家もある。ローンもある。子供たちの学校は？友達は？両親の事は？この６ヶ月間、心の底から笑う事ができませんでした。やはり、ここは普通ではない場所になってしまったのです。どっちを向いて生きていけばいいのかわからない状態であることが一番つらい事です。先日9/18の郡山での野呂さんのイベントへ参加できなかったので残念でした。近所で沖縄へ引越してしまった家族に会いに沖縄へ行って来ました。子供たちも再会をとても喜んでいました。いい保養になりましたが・・・家族４人で行って40万円でした。イタリアでお世話になったご家族に会いに行くのが我が家の楽しみな目標になっています。そのためには120万円以上ためなければなりません。いつになったら行ける事やら・・・。

イタリア保養の事、本当に感謝しております。私たち福島の人を応援してくれている人がいるのだとわかって、とても心強く感じることができました。世の中には、なんとすばらしい人がいるんだ・・・と感動しました。北海道へもいつかスタッフの皆さんにお礼にうかがいたいと考えております。スケジュールをみると、とても多忙なご様子。本当にお体には気をつけて。体調を崩さないようにして下さい。

ありがとうございました。

影山 陽子





子供たちの内部被ばくの調査を大至急！
ホールボディカウンターの購入にご協力を！

費用は
1台400万円～500万円

なぜ子供たちの被ばく状況を開示しないのか、秘密にする理由がわかりません。

「大丈夫」「ただちに影響ない」という言葉は、上から目線であって、「オレを信じればいい」という隷属させられた立場におかれます。

ホールボディーカウンター

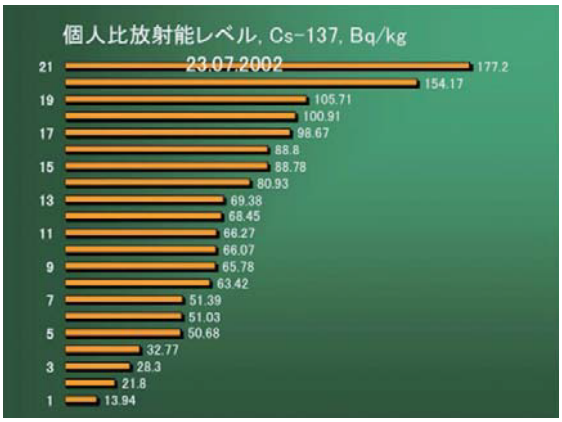


このような関係は子供にとってはよくありません。

１００％クリアな説明が必要です。不安の海に投げ込まれ、大人たちが口をつぐんだり、妙に経済性を考えてごまかせばごまかすほど、事態は悪化し、子供たちは余計、自分の不安感を口に出さずに心の奥にしまいこんでしまう人間になっていきます。

１番から２１番までのチェルノブイリの子供のうち、危険ゾーンではないのは１番だけです。気をつけていない親の子は、放射能が蓄積されています。20ベクレル/kg～50ベクレル/kg蓄積されると、P３）にあったような体の異常が出てきます。50ベクレルを超えると何らかの病変が起こると言われています。

個人比較放射能レベル　Ｃｓ－１３７



チェルノブイリ支援	郵便振替口座：02760－4－52311 銀行からゆう貯銀行へ：支店名 二七九　口座番号 0052311　振り込み口座名 チェルノブイリへノカケハシ
日本支援	郵便振替口座：02700－3－28064 銀行からゆう貯銀行へ：支店名 二七九　口座番号 0028064　振り込み口座名 カケハシ

募金先はホームページをご覧ください。





福島第一原発重要免震棟内に
飾られています

祈りの千羽鶴



静まれ原発 祈りの折り鶴

札幌のNPO法人が募集

「命がけの人たちを応援」

読売新聞（夕刊）2011・3・30 北海道版





消防庁さんと防衛省さんにも感謝の気持ちを届けてまいりました。

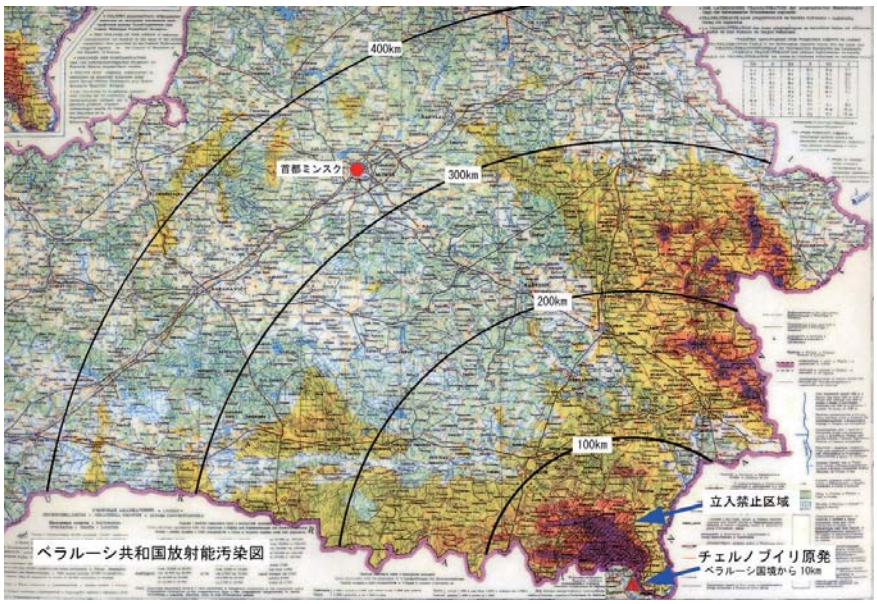
ベラルーシ共和国汚染地図

黄色、オレンジ、紫と行くほど放射能が濃くなっていきます。

チェルノブイリ原発は国境からわずか10kmしか離れていませんでした。死の灰の約70%が風下のベラルーシ共和国にふりそそいだと言われています。

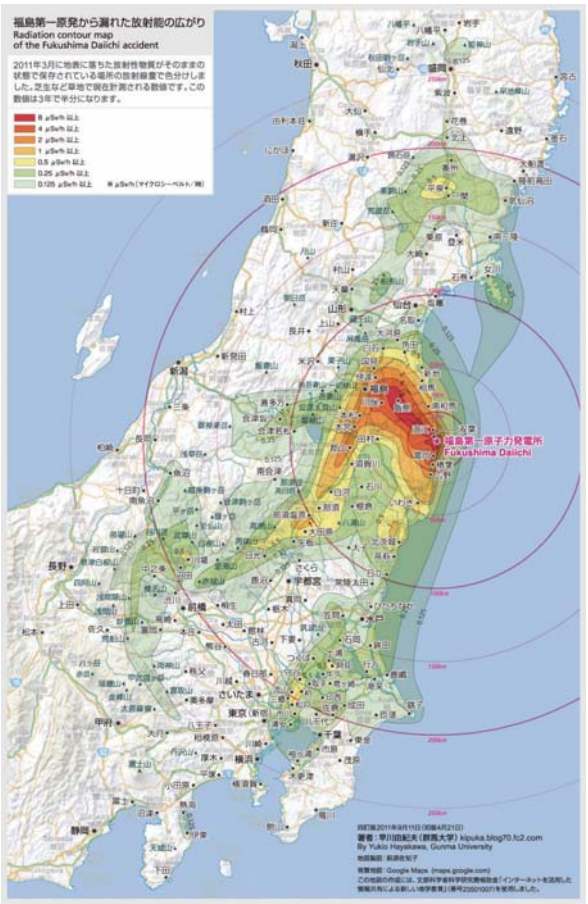
約400km離れたミンスクのそばの黄色の汚染地帯でも、小児甲状腺癌がみつかりました。当時は子供たちの体が放射能カウンター代わりだったのです。遠くにとんだ放射能のほうが粒子が細かくて、植物や体に吸収されやすく危険だと言われています。綿密な検査が必要です。100km周辺の子供たちの体内の放射能蓄積量よりも高かったのです。

そのため、土壌は同じ汚染濃度であれば、遠くのほうを先に移住させたと言われています。



福島第一原発から漏れた放射能の広がり

緑色の周辺には
さらに低線量の汚染地帯が広がっています。
くわしい調査が必要です。



抵抗力を落とさないために

1. 早寝早起き
2. 三度の食事の時間を決める
3. お酒は1日1合
4. 暴飲暴食をしない
5. 軽い散歩
6. ストレスを溜めない
7. 便秘をしない
8. 新鮮な果物や野菜でビタミンを摂取!

野菜を食べて心筋梗塞予防!

これからの人生、すべて子供たちを守るために力をつくしましょう!

園長先生は、子供たちを被ばくから守る！として、お水もペットボトルを取り寄せ、食べ物の遠方から、そして被ばくをさけるために園庭でも遊ばせていませんでした。150名の子供たちを外に出さなかったらどうなるか。けんかさせないために創意工夫を重ねていました。国や県や市やお医者さんは外で遊んでも、飯館村から引いている水を飲んでも大丈夫だと。園長先生は、子供たちを被ばくさせてはならないと見えないつばさで子供たちを包みこんでいるようでした。

お笑い番組を見ている場合ではない、緊急事態が起こっています。福島県をはじめ関東圏でもこのようにして必死で子供たちを被ばくから守っている方たちがいらっしゃいます。どうか、援助の手をお貸しくださいませ。

この先生たちを助けて行きたいです。チェルノブイリでも自分の命をかけて汚染地域に残っている先生たちがいらっしゃいました。

このような子供たちを保養や疎開させることは国の責任でも、民間でもやっていかなければなりません。まず、外遊びができないので、木製の遊具などを寄付していきたいと考えています。安全なところにバスで連れて行って遊ばせたいという方も。どうかご協力をお願いします。

子供たちを助けるためにいくらあっても足りません。



相馬市内の保育園。園長先生の自宅も津波で流されすべてを失い。
それでも南相馬市から流入して150名ほどに膨れ上がっています。

かけはしの活動が本になりました!

印税はすべてチェルノブイリと日本の子供たちのために使用されます。



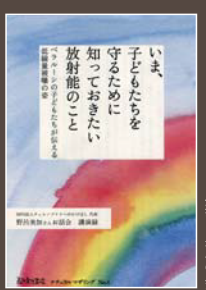
子どもたちを内部被ばくから守るために親が出来る30のこと
ちくま書房



放射能の中で生きる、母たちへ
美術出版



チェルノブイリから学んだお母さんのための放射能対策
学陽書房



いま、子どもたちを守るために知っておきたい放射能のこと
自然育児友の会

● 個人の方は、お近くの書店でお求め下さい。

● 10冊・20冊単位で、まとめてご注文の場合

かけはしまでお問い合わせ下さい。
☎011-511-3680

「いま、子どもたちを守るために知っておきたい放射能のこと」のみ、「自然育児友の会事務所」まで。

自然育児友の会事務局
☎042-326-2208





チェルノブイリへのかけはし通信　平成23年10月8日 発行
NPO法人チェルノブイリへのかけはし
〒064-0809 札幌市中央区南9条西6丁目421-6 八条マンション104号 TEL/FAX (011)511・3680